

秋田の土地改良

7

2010・JUL



みどり
水土里ネット秋田

目次

「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集会…	2	第8回水土里のみちウォーキングin仁井田walk ……………	7
秋田県土地改良事業団体職員会第50回通常総会&創立50周年記念式典…	3	特集：農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ②) ……………	8
平成22年度水土里ネット広報キャラバン ……………	4	富根地区(切石工区)県営経営体育成基盤整備事業竣工 ……………	11
秋田県農地集団化推進協議会第50回通常総会 ……………	5	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会第50回通常総会 ……………	12
平成22年度秋田県耕作放棄地対策協議会第1回通常総会 ……………	5	連合会日誌 ……………	12
水土里ネット支援事業(土地改良区維持管理計画書作成支援) ……	6	会員だより・インフォメーション ……………	13

「食」と「地域」の再生に向けた 農業農村整備予算の確保を求める集会！

全国の関係者約700名が参加

「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集会が6月7日、ニッショーホール（東京都港区虎ノ門）で開催された。

この集会は、全国の農業者、農業農村の将来を心配する有識者、市町村長、水土里ネット関係者 66 名が呼びかけたもので、全国から約 700 名が駆けつけた。



▲呼びかけ人代表挨拶

集会では、呼びかけ人を代表して、水土里ネットほっかいの眞野弘理事長が「22年度予算をはじめ、農業農村整備の厳しい状況を打破するには、各地域の声を大きなうねりとして、全国の総力を結集することが必要である。我が国の農業農村が持続的に発展し、農業者が意欲を持って営農を実現し、地域住民が将来に明るい展望を持てる環境をつくり出すためにも、「食」と「地域」の再生に向け、私たちの活動に賛同いただき、22年度補正と23年度予算の確保を求め、政権与党をはじめ関係要所に訴えていこうではありませんか」と挨拶。続いて、全国水土里ネットの野中広務会長が激励の挨拶にたった。



▲「ガンバロウ！」三唱

また、水土里ネット秋田（報告者：水戸常務理事）をはじめ、明治用水土地改良区、大井川土地改良区、新潟県などから予算削減の影響や現状を踏まえた取り組みが報告された。続いて、集会の名において行う決議文案が大分県杵築市の八坂市長より読み上げられ、満場一致で採択、最後に水土里ネット豊田の吉本理事長の音頭で「ガンバロウ！」を三唱して集会を締めくくった。

集会終了後、参加者は農業農村整備予算の確保について、財務省、総務省、農林水産省、民主党及び地元選出の国会議員に対し要請活動を行った。

秋田県土地改良事業団体職員会

第50回通常総会を開催

6月25日、秋田市の秋田キャッスルホテルで、秋田県土地改良事業団体職員会(鈴木英弘会長)の第50回通常総会が開催され、「21世紀土地改良区創造運動の推進及び土地改良区の役割に関する啓発」、「農業水利施設内の「ゴミ」実態調査に関する協力」など、本年度の事業計画などを決めた。

同職員会は、会員の事務・技術能力の向上等を目的に、昭和36年に設立され、現在の会員数は、106団体の328名となっている。



総会は、鈴木会長の挨拶に続き、功労者7名の表彰が行われた。

さらに、本会黒子専務の来賓祝辞の後に、「平成22年度収支予算書について」等、7件の提出議案についての審議が行われ、いずれも原案通りに可決された。



▲鈴木会長による挨拶

■ 功労者表彰

- 石山 丸子 (二ツ井町土地改良区)
- 児玉 俊一 (三種町鶴川土地改良区)
- 戸井田 寿幸 (河辺土地改良区)
- 岡部 広樹 (仁井田堰土地改良区)
- 鈴木 龍一 (潟上市天王土地改良区)
- 藤川 博栄 (秋田県田沢疏水土地改良区)
- 三浦 桂子 (横手市沼館土地改良区)



創立50周年記念式典を開催

同ホテルに於いて、通常総会終了後に開催された「創立50周年記念式典」では、鈴木会長の式辞、本会高員会長の来賓祝辞に続き、式典に際して編集した「50年の歩み」の放映、黒崎一紀氏(秋田椿台エフエム放送株式会社代表取締役)による「聞くラジオから出るラジオ～自分の言葉で伝えよう～」と題した記念講演などが行われた。



▲記念講演を行う黒崎氏

平成22年度

水土里ネット広報キャラバンを各支部で開催!!

平成22年度水土里ネット広報キャラバンが6月22日の山本支部を皮切りに8会場で開催された。

キャラバンは、会員に最新の情報を提供し、農業農村整備事業の推進に活用頂くとともに会員の意見・要望をくみ取り、本会の業務運営に反映させるため平成18年度から実施しています。

今年度は特に、国の22年度農業農村整備事業関係予算が対前年比3割ほどとなったことから、農業・農村を取り巻く状況は一段と厳しいものとなってきており、更なる経費の削減や技術力の向上を図り、本会の持っているノウハウや技

術力を十分に発揮し、会員の負託に応えることが求められております。

会場では、新たな支援（「ゴミ」問題調査・研究）や水土里情報システムなどに関心が寄せられ多くの質問や意見が交わされた。

【情報提供】

1. 水土里ネットへの新たな支援について（「ゴミ」問題調査・研究）
2. 水土里情報システムの活用について
3. 水土里マネジメント事業について
4. 小水力発電部門の業務について



▲由利支部（6月30日）



▲秋田支部（7月2日）

【開催状況】

支部別	開催日	参加者	開催場所
鹿角	6月24日	21人	鹿角市山村開発センター
大館・北秋田	6月29日	35人	北秋田市交流センター
山本	6月22日	73人	シャインプラザ平安閣能代
秋田	7月2日	50人	イヤタカ
由利	6月30日	69人	本荘グランドホテル
仙北	7月8日	86人	大曲エンパイヤホテル
平鹿	7月1日	37人	松與会館
雄勝	7月12日	56人	湯沢グランドホテル

秋 田 県 農 地 集 団 化 推 進 協 議 会

第50回通常総会

農業農村整備事業予算の確保対策に取り組む

7月9日、秋田市のメトロポリタン秋田で秋田県農地集団化推進協議会（佐々木紘一会長）の第50回通常総会が開かれ、農業農村整備事業予算の確保に向けた国への要請活動など、本年度の事業計画などを決めた。

同協議会は昭和49年に設立され、農地集団化事業の促進などを目的に、啓発活動などを行っており、会員は県内の73土地改良区などで構成されている。

総会には約80名が出席し、本年度の事業計画について事務局が「農業の体質強化には、経営規模拡大による効率的な営農の実現が求められている。しかし、政権交代により農地整備のための農業農村整備事業予算は大幅に減額されている」などと説明し、本年度は予算確保対策に力を入れることを承認した。

このほかの事業として、農地集団化についての研修会や講習会の開催、優良先進地研修、農

地集団化事業優良地区と功労者の表彰などの実施を予定している。

また、総会終了後には創立50周年記念

式典が執り行われ、鈴木和一氏（秋田県南旭川水系土地改良区常務）による記念講演「百姓一筋50年地域の担い手、農業法人を立ち上げた時」が行われた。

なお、今年度の優良地区及び功労者表彰は次のとおり。



◇優良地区表彰

糸流川地区（琴丘土地改良区）、堀坂地区（大仙市）、花館地区（秋田県仙北平野土地改良区）、六郷西部地区（仙北郡六郷町土地改良区）、里見地区（おものがわ土地改良区）

◇功労者表彰

大越昇（男鹿市若美土地改良区理事長）、小山田雅浩（大仙市西仙北土地改良区理事長）

**耕作放棄地再生事業の
成果報告**

秋田県耕作放棄地対策協議会の通常総会を開催

6月28日、秋田市の県土地改良会館（水土里ネット秋田会議室）で秋田県耕作放棄地対策協議会の本年度第1回通常総会が開催され、昨年度は県内14市町村約40haで実施された耕作放棄地再生事業を支援したことなどが報告された。

同協議会は、国の耕作放棄地再生利用緊急対策事業（平成20年度～23年度）の導入に合わせ、平成20年1月に設立され、市町村に対し、国からの交付金事務や再生事業の指導などを行っている。

総会では黒子高夫会長（水土里ネット秋田専務理事）が「今年4月から再生した耕作放棄地での農業体験事業を開始した。こうした活動を通して放棄地対策のPRに努めていきたい」と

挨拶した。市町村に対して再生利用計画作成の指導などを行って平成21年度の事業報告を承認

したほか、任期満了に伴う役員改選を行い、黒子会長を再任（任期は2年）した。

平成20年時点で全县の耕作放棄地は360haで、このうち活動初年度の平成21年度は、14市町村の計約40haで再生事業に取り組み、国の耕作放棄地再生利用交付金3,649万円が活用された。本年度は19市町村約100haで、約1億円の交付金を予定している。

なお、会長以外の役員は次の通り。（敬称略）

◇副会長 鈴木 誠（県農業会議事務局長）

◇監事 齊藤滋夫（県農業公社事務局長）、高橋明彦（JA秋田中央会担い手対策室長）



水土里ネット支援対策事業

— 土地改良区維持管理計画書作成支援 —

本会の会員に対するサポート業務の一環である、水土里ネット支援対策事業(維持管理計画書作成支援業務)の支援対象となった土地改良区から、次の様な感謝の言葉を頂いております。

■大仙市大曲土地改良区

土地改良法において定義されている「土地改良事業」のなかに、「農業用排水施設、農業用道路、その他農用地の保全又は利用上必要な施設(土地改良施設)の新設、管理、廃止又は変更」という条文があり、土地改良施設の維持管理も重要な事業として位置づけられております。

また、施設の維持管理については、施設の形態や規模あるいは経年などにより、軽微なものから補助事業の活用を必要とするものまで、対処に違いがあります。

当土地改良区は、平成14年度に4つの土地改良区が統合しており、未整理地域、パイプライン灌漑地域、あるいは担い手育成基盤整備事業の完了直後の地区など、まさに施設の維持管理形態に相違がありました。

さらには、施設の規模、構造、位置等の多様性に加え、資料不足もあり、受益全体の維持管理計画書の整備には、非常に苦慮している状況でした。

この度、秋田県土地連の「維持管理計画書作成支援」によって、本来は整備されていなければならない、土地改良区の全域に係る適正な維持管理計画書の作成をして頂き、深く感謝申し上げます。

お陰様を持ちまして、土地改良施設の有している機能の維持を図るうえで、有機的に活用できることと併せ、今後の新たな土地改良事業への取り組み等へ、大いに役立つものと考えております。

■羽後町土地改良区

平成20年9月に、東北農政局による132条検査で、維持管理計画書について指導を受けました。

しかし、その変更には、多大な労力と費用、多くの時間を伴うため、見直しに対して苦慮している状況でした。

翌年春に、水土里ネット秋田の方が見えられ、「維持管理作成書作成業務を創設したので、計画の見直しのお手伝いができるようになった。」とのお話があり、まさに「渡りに船」とはこのことで、早速お願いすることにしました。

水土里ネット秋田の担当者の方には、資料等の提出が遅れ、大変なご迷惑やご苦労をおかけしましたが、今、水土里ネット秋田で手掛けられております、地理情報システムのオルソ画像に、膨大かつ多量の土地改良施設を貼り付けていく手法を用いて頂く等のご労苦により、お陰様を持ちまして、立派な維持管理計画書を作成して頂きました。心から感謝致しております。

今後は、この計画書に基づき、農業・農村の発展のために、施設の尚一層の適切な維持管理に努めたいと思いますので、ご指導の程宜しく願います。

■仙北平野豊川土地改良区

この度、平成21年度に創設された水土里ネット支援対策事業に依り、維持管理計画書の作成支援業務を土地連にお願いしました。

当区に於ける維持管理計画書は、昭和50年代前半の県営圃場整備事業の完了時に作成されたものであり、事業によって造成された施設も、経年により老朽化が進んだ為、平成14年度から平成20年度まで、経営体育成基盤整備事業を導入し、施設の改良に取り組んで参りました。

従って、維持管理計画書の調製業務は必須なものであり、土地連からのこの事業への誘引は、

時宜を得た有り難いものでありました。

会員へのサービス向上に向けた取組みとは言え、土地連職員の方々が幾度にもわたり、地元へ足を運んでくださり、緻密な努力、卓越した技術により、早期に完成をして頂くことが事が出来ました。

現在、当区において施設の再確認の作業を行っ

ておりますが、土地連による日頃からの多面的なご指導、ご支援の賜物と強く感じております。

今後、作成された維持管理計画書を基に、施設管理の高度化に向けて、より適正且つ機能的な維持管理に努めて参りたいと考えております。

この度の土地連のご高配に、心から感謝申し上げます。

第8回 突然の雷雨で・・・8回目にして初の途中中止に!! 水土里のみちウォーキング in 仁井田 walk

6月20日(日)、秋田市の仁井田・四ツ小屋地区を会場に「第8回水土里のみちウォーキング in 仁井田 walk」(主催：水土里ネット仁井田堰、秋田県ウォーキング協会)が開催されましたが、突然の雷雨による悪天候でスタート後に途中中止となりました。

開催当日は朝からすっきりしない空模様。それでも受付時間になると順調に参加者が集まりはじめて、14km



▲途中から雨脚が強まり…

コースには86名の参加者が集い、8時30分から出発式が行われました。準備体操の後、「エイ！エイ！オー」のかけ声とともに出発。それから間もなくして、空から雷の音と共に激しい雨が降り出してきました。

スタートした14kmコースは急遽6kmコースへと変更、そして後半

出発のため待機していた6kmコースは中止の判断となりました。(6kmコースにも139名の方が受付まで来ていただきました)



▲無事ゴール。皆さんお疲れさまでした。



▲14kmコースは元気にスタート!

コースは中止の判断となりました。来年は、ウォーキング日和(晴れ)になることを祈りながら、多くの方々が参加されることをスタッフ一同が期待しています。



▲残念ながら途中で中止の判断が!

特集

農業水利施設内の「ゴミ」問題

シリーズ②

水土里ネットが管理する農業水利施設におけるゴミ発生状況調査・観察結果

水土里ネット秋田では、6月から7月にかけて、土地改良区が管理する農業水利施設のゴミ発生状況調査観察を実施し、概況をまとめてみました。ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

▼ 調査地区の概要

(7月16日調査時点)

調査の内容	県北管内 (鹿角・北秋・山本)	県央管内 (秋田・由利)	県南管内 (仙北・平鹿・雄勝)	計
調査団体数	44団体	43団体	35団体	122
基幹的水利施設数	891施設	875施設	326施設	2,092
ゴミ処理に苦慮している主な施設数	150施設	95施設	82施設	327
(苦慮施設の内訳)	県北管内	県央管内	県南管内	計
ダム	1	2	2	5
ため池	2	10	7	19
頭首工	42	31	19	92
揚(排)水機	57	45	16	118
水路	48	3	33	84
樋(水)門	0	2	3	5
畑かん	0	0	1	1
その他(サイフォン等)	0	2	1	3

▼ 代表的施設の「ゴミ」観察写真

■ 県北管内



<OM土地改良区が管理する分水工>



<T土地改良区が管理する取水施設>

■ 県央管内



<AA 土地改良区が管理する円形分水工>



<O 土地改良区が管理する取水施設>

■ 県南管内



<AO 土地改良区が管理する幹線分水工>

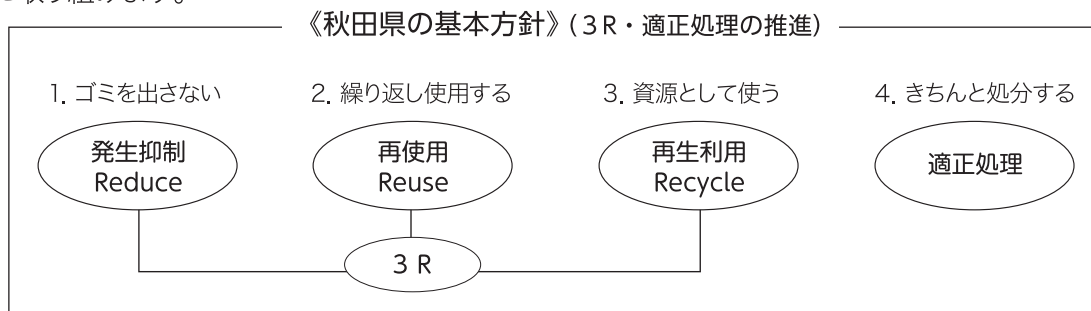


<Y 土地改良区が管理する大排水門>

行政、民間もふくめたネットワークの形成と、安全・安心への意識の共有及び、
下流域への配慮意識・水質保全等の推進について

▼ 循環型社会に向けた秋田県の取り組み (秋田県HP-美の国あきたネットより)

2006年6月「循環型社会形成推進基本法」が制定され、限りある資源やエネルギーを有効活用し、地球環境に悪影響を及ぼさない社会の実現に向けて、国の制度や企業の取り組みが変わり始めており、秋田県においても、「県民・事業者・行政」の三者がパートナーシップを発揮して、循環型社会づくりに積極的に取り組みます。



▼ 水土里ネット稲川の取り組み (水土里ネット稲川 HP より)

水土里ネット稲川では、平成16年より稲川地区の小中学生を対象に「ゴミ捨て防止標語コンクール」に取り組み、毎年多数の応募が寄せられております。

平成21年度は、小学生(305点)中学生(195点)と過去最高の500点の応募が有り、審査の結果、下記の作品が「最優秀賞」「優秀賞」に選ばれ、平成21年10月23日の理事会で表彰されました。

〈小学生部門〉

- 最優秀賞:捨てるほど 汚れる地球と 自分の心
- 優 秀 賞:ごみのない 水土里きれいな 町づくり
- 同上 :ゴミ捨てて スッキリするのは あなただけ
- 同上 :ごみを捨てる あなたの心も ゴミ箱に・・・
- 同上 :捨てちゃダメ きれいな町は 夢じゃない
- 同上 :捨てないで 命をつくる この水に

《此まで応募した小学生の優秀作品看板》



〈中学生部門〉

- 最優秀賞:届けよう みんなの水土里を 未来まで
- 優 秀 賞:待ちどおしい きれいな町と 言える日が
- 同上 :捨てないで すべての水路に 命あり

※標語を呼んで大変感動しました!! 大人も、小中学生のような「心」で有りたいものです。

▼ 水土里ネット秋田が、「雄物川環境フォーラム」と「雄物川一斉クリーンアップ」に参加

平成22年6月5日(土)6日(日)の2日間、NPO法人秋田パドラーズ主催による「雄物川環境フォーラム」と「雄物川一斉クリーンアップ」が開催されました。

5日(土)は、秋田市文化会館でアルピニスト野口健さんの基調講演が行われ、約350人の来場があり、水土里ネット秋田からも18人参加しました。

野口さんは1995年、25歳で7大陸最高峰の登頂を世界最年少ではたすなど、アルピニストとして活躍しており、世界の山を登頂する過程で日本語で書かれた多くのゴミを目のあたりにし衝撃を受け、清掃活動を始めるきっかけとなったそうです。現在は、ヒマラヤや富士山などで清掃活動を広く展開しており、これまでの活動秘話、啓発の重要性など、ユーモアを交えて語られ、聴衆の感動を得たフォーラムでした。

又、富士山清掃活動は、11年前に始め約100人の参加者が、昨年は、全国から、約6,800人の参加者が増え、継続の大切さと、「環境問題は自然が相手ではなく、人間社会が相手だ」とも表現され、山を綺麗にするだけでなく、人々の意識を変えることの重要性を訴えました。

《環境あきた県民フォーラムの状況》



▲講師の野口健さんと共催団体写真 (水土里ネット秋田のスポンサー看板)

6日(日)に開催された「雄物川一斉クリーンアップ」にも多くの参加者が集まり、午前9時30分に雄物川河川敷の茨島発着場(本部)での開会式の後、バス9台で雄物川河口付近に移動し、清掃活動を行いました。

水土里ネット秋田も、31名が参加し、揃いのユニホームが参加者の注目を得、今年度から取り組んでいる「ゴミゼロ」実践活動をPRすることが出来ました。今後も、このような活動に積極的に参加し、取り組みの基本理念である「安全・安心」な農産物生産環境の創出に、欠かすことのできない水土里が管理する農業水利施設のゴミ処理問題に取り組んいきます。

《雄物川一斉クリーンアップの状況》



▲水土里ネット秋田の参加者集合写真

▼ 今後の「ゴミゼロ」実践活動の予定

- 調査結果の中間取りまとめ(7月下旬～8月上旬)
- 現地・団体など補足調査 (8月中旬～8月下旬)
- 調査結果の最終取りまとめ(9月上旬～中旬)
- 土地改良区など関係者による検討会開催(9月下旬)
- ゴミの実態調査PR資料等の作成(各種講習会に活用)



<U土地改良区の啓発看板>

今後ご協力よろしくお願ひします。

(問合せ先) 総務企画部広報・渉外班 農業関連施設「ゴミ」問題担当 TEL.018-888-2712

富根地区(切石工区)

74haのほ場整備事業竣工

ニツ井町土地改良区が受益団体となっている能代市ニツ井町の「富根地区(切石工区)県営経営体育成基盤整備事業」がこの度完了し、6月10日、関係者約40名が出席し現地で完工を祝った。

同事業の全体面積は435haで、うち切石工区は74haで受益戸数は138戸。平成10年度から21年度までの12年間に総事業費13億8千万円を投じ、10a区画から1ha区画を中心とした水田地帯に生まれ変わった。

切石工区は、平成12年度から15年度まで面工事、15年度から18年度まで暗渠工事が行われ、18年度に換地業務を終え、21年度に完了となった。

この日は、竣工記念碑の除幕式も行われ、同土地改良区の石山理事長は「事業の完成により今後担い手が農地を効率的に利用し、農業基盤を築き上げていくことを願っている」と語っていた。



東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会

第50回通常総会

■中長期的な農業農村整備事業予算の確保対策に取り組む

5月13日、仙北市田沢湖で東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（高貝久遠会長）の第50回通常総会が開かれ、中長期的な視点に立った農業農村整備事業予算の確保に向けた国への要請活動など、本年度の事業計画などを決めた。

総会には20名が出席。平成21年度事業報告及び収支決算の承認、平成22年度



事業計画（案）及び収支予算（案）などが協議された。平成22年度の事業計画については、引き続き中長期的な視点に立った農業農村整備事業予算の確保を強く要望して行くとともに、食料生産と国土保全の根幹を担う農業農村整備事業の推進のため、①事業推進活動、②事業に関する協力及び情報交換、③東北・北海道の農業農村整備事業に関する調査研究、④要請活動などを実施することを承認した。



また、平成22年度事業計画の一環として、5月25日～26日には本会会議室を会場に「技術士二次試験合格対策研修会」を開催したほか、7月28日～29日は「平成23年度農業農村整備事業予算の確保」に関する要請活動を、東北農政局及び農林水産省、財務省、民主党幹事長、各県道選出国會議員に対し実施する予定である。

連 合 会 日 誌

5月12日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議	東京都
6月10日	東北農業農村整備推進協議会第10回通常総会	宮城県松島町
7月4日	疏水ネットワーク平成22年度第1回通常総会	兵庫県
7月4日	疏水フォーラムinひょうご2010（～5日）	兵庫県
7月8日	平成22年度21世紀土地改良区創造運動大賞東北地方選考委員会	仙台市
7月23日	小友第三地区クリーンセンター通水祝賀会	由利本荘市
7月24日	平成22年度水土里の郷わくわく探訪（土地改良施設巡り）	三種町・大潟村
…………… 今後の行事予定 ……………		
7月27日	全国農業集落排水事業推進協議会第21回通常総会	東京都
7月27日	「食料基地あきた農業農村整備基本計画《NN基本計画》」にかかる意見交換会	北秋田市「北秋田地域振興局」
7月28日	秋田県立金足農業高等学校就業体験実習（インターンシップ）（～30日）	本会
7月28日	東北・北海道土地連絡協議会要請活動（～29日）	東北農政局・農林水産省
8月4日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会第1回事務主任者会議（～5日）	秋田市
8月5日	用排水施設整備事業促進東北協議会平成22年度定期総会並びに研修会（～6日）	秋田市
8月10日	平成22年度あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議運営委員会	本会「第1会議室」
8月19日	正副会長会議	本会「役員室」
8月20日	大館市土地改良区合併予備契約調印祝賀会	大館市
8月31日	平成22年度北海道・東北ブロック土地改良換地関係訴訟検討会	山形市
9月15日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会第2回事務責任者会議（～17日）	北海道
10月26日	第33回全国土地改良大会（長崎大会）（～29日）	長崎県
10月30日	第133回秋田県種苗交換会（～11/5）	北秋田市
11月2日	秋田県土地改良事業推進大会	北秋田市「合川体育館」

会員だより

事務所移転のお知らせ

○稲川土地改良区 (H22.5.12)

【新所在地】〒012-0107

湯沢市川連町字上平城120番地

湯沢市役所稲川庁舎 2階

TEL.0183-42-2116 FAX.0183-42-2119

新理事長就任のお知らせ

次の方々が新たに理事長に就任されました。

○鳥海町笹子土地改良区 (H22.5.1)

理事長 栗田 哲 榮

○大仙市横堀土地改良区 (H22.5.7)

理事長 佐々木 勝 夫

○美郷町千畑土地改良区 (H22.5.20)

理事長 佐藤 辰 雄

○山城水系土地改良区 (H22.5.24)

理事長 高田 清 茂

○合川土地改良区 (H22.7.14)

理事長 土濃塚 謙一郎

INFORMATION



土地改良区

H22「ながれ写真集」発行します。

平成22年度「ながれ写真集」(秋田県土地改良事業団体職員会発行)は、7月末発行を予定しております。購入希望の方は、下記担当までお問い合わせください。

【販売価格】

- ・水土里ネット秋田会員 1,000円
- ・会員以外の関係者 1,500円

【問い合わせ先・申込先】秋田県土地改良事業団体職員会事務局
水土里ネット秋田 総務企画部総務班
TEL.018-888-2714 FAX.018-888-2834



夏季休暇のお知らせ

水土里ネット秋田は、8月13日～15日まで夏季休暇のため、各事務所(本部・北事務所・南事務所)は閉館となりますのでお知らせします。

あきた食料・環境・ふるさとを考える 地球人フォーラム2010 開催案内

テーマ 『共に語り考える 水・土・里の資源と環境』(仮称)

日時 9月5日(日) 13:00~16:00 (開場12:30)

定員 定員 400名 (入場無料)

場所 秋田市文化会館・小ホール (秋田市)



講師/西木正明氏

- 基調講演
演題/「今、地球上で何がおきているか」
講師/西木正明氏 (作家・仙北市西木町出身)
 - 秋田県中山間ふるさと水と土フォーラム
 - 秋田県21創造運動表彰式
 - 水土里の活動報告
- ※詳しくは、後日発行予定の開催案内をご覧ください。

参加者に
野菜のプレゼントが
あります。

【問い合わせ・参加申込先】 あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議
【事務局】 水土里ネット秋田 (秋田県土地改良事業団体連合会) TEL.018-888-2742 FAX.018-888-2834

平成22年度秋田県土地改良事業推進大会

平成22年11月2日(火) 午後1時00分

北秋田市「合川体育館」 北秋田市李岱字豊岡25 TEL.0186-78-2178

野山の花 ルピナス(和名:登藤)



6月下旬、色とりどりの登藤(ノボリフジ)が天を仰いでいました。(写真提供/井島めぐみ)

編集後記

◆梅雨が明け、「暑いですね」がこのところのあいさつになっています。全国各地で体温よりも気温が高くなる猛暑が続いています。二十四節気の一つ「大暑」を迎え、いよいよ一年中で最も暑い時節の到来です。最近、ヒグラシの鳴き声で目が覚めるのが、毎朝の日課となり、セミのかん高い鳴き声との合唱で、小鳥のさえずりがかき消されるほどです。トンボも飛び交い、サルスベリの花が盛り、まさに盛夏の光景です。夏を盛り上げる高校野球秋田大会は、能代商が25年ぶりの甲子園出場を手に入れました。まだまだ、暑い夏は続きますが、春先の天候不順に見舞われた農作物にとっては恵みの太陽となることでしょう。
(広報・渉外班◆嵯峨記)

表紙写真 美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品「転作の時代」

※本印刷用紙は、大昭和板紙秋田工場で生産された「地産地消製品」を使用しております。